

# 中学2年1組 音楽科学習指導案

指導者 小 村 聡

伝え合ったり、聴き合ったりする活動を取り入れたことは、思考力・判断力・表現力を高め合うことに有効であったか。

## 1 題材名 旋律づくりをしよう ～イメージを音へ、そしてメロディへ～

### 2 授業の構想

(1) 本学級の生徒は、男子18名、女子17名、合計35名である。歌唱では、ほとんどの生徒が変声期を終え、女子は声に艶が生まれはじめ、男子は深みと響きが増しはじめている。全校が11月初旬に開催した校内音楽会に向け、クラス一致団結して歌おうという雰囲気が高まる中、本学級も実行委員やパートリーダーの生徒を中心に高まりをみせ、自分たちの声の成長を感じるとともに、その声の成長が生み出す歌唱表現の広がりを感じた生徒も多い。また、声が安定して出せるなどの技能的側面の成長に加えて、歌詞のイメージや歌詞に対する自分の思いをより深く歌唱表現できる喜びも感じはじめている。器楽では、中学1年時よりアルトリコーダーを中心とした取り組みを行なっている。附属小学校ではソプラノリコーダーの検定員制度があり、多くの児童がソプラノリコーダーに興味をもち、それを目標に日々練習を重ねる児童が多い。そのような児童は、リコーダーに触れている時間も長く、取り組む楽曲数も自ずと増え、従って楽譜を読む力も身に付いているために、中学校入学後もアルトリコーダーに対して抵抗を示すことは少ない。アルトリコーダーに抵抗を示す生徒のほとんどが、運指の難しさによるつまずきよりも読譜力の弱さによるつまずきを示している。創作では、小学校においてイメージに合う音をつなげての音楽づくりやリズムを中心とした簡単なおはやしづくりなどを経験している生徒が多い。そして中学校においては、これまでにテーマをもとにしたリズムの創作とリコーダーを使っただけの簡単な旋律の創作を行なった。リズムの創作では、グループ内での即興的な会話のやりとりの中でリズムを生み出す取り組みを行ったところ、最初は戸惑いながらも言葉そのものがすでにもっているリズムに気付きながら意欲的に取り組む姿がとらえられた。また、旋律の創作では、曲をつくってみたいという強い意欲を示しながらも自分の思った音程やリズムを実際に音符で書き表す段階になったところで困難さを感じる生徒が多かった。アルトリコーダー同様、読譜力の弱さにつながるところが大きい。鑑賞では、音を聴いてから瞬時に発想する力やその発想の豊かさにすばらしいものを感じる。また生徒の感想からは、一度聴いた音や音楽を再度じっくり聴かせることにより、さらに広がりを見せたり、音素材そのものの音色追求に耳を傾けたりする姿がとらえられた。

音楽の授業では、これまでイメージや思いを表現へとつなげていく活動を増やしたり、読譜力を養う学習を継続して行なったりしてきた。例えば、歌唱において強弱や速度などの表現記号をすべて除いた楽譜を使い、イメージや思いから表現を考えさせ、工夫させるなどの活動を行ってきた。また、中学1年時後半から授業の冒頭に「音符の書き取り」を行なってきた。「音符の書き取り」とは、教師が階名で歌う4分の4拍子、4小節の簡単なメロディを五線譜に書き取るものである。音符や休符の形、音の高さ（位置）や長さ（種類）、音の高低（音程）や長短（リズム）を書き表すことにより、読譜力を養うとともに一つ一つの音のつながりが音楽を構成していることに気付かせたいと考えたからである。

(2) 小学校の音楽づくり領域は、身の回りの音の面白さに気付かせ、音遊びさせることから始まり、いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみながら即興的に表現させ、音楽の仕組みを生かして思いや意図をもって簡単な音楽をつくらせ、次第に音を音楽に構成する過程を大切にしながら見通しをもって音楽をつくらせていく。そして、中学校の創作領域では、言葉や音階、音素材などの特徴を感じ取り、理解し、反復、変化、対照などの構成を工夫しながら簡単な旋律をつくらせることへと発展していく。中

学2・3年時では、言葉や音階、音素材などの特徴に気づき、自己のイメージや音楽を形づくっている要素と関わらせながら、それを生かし、音を音楽へと構成し、旋律をつくらせたいと考えている。

イメージしたことを表現へとつなげるために音や音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、強弱など）を的確に選び、工夫する（判断力）ことができる子どもの姿を実現するべく、本題材の授業を構想することにした。

本題材では、一人ひとりが自分のイメージを大切にしながら8小節の旋律を完成させる。これまでの旋律づくりでは、リコーダーを使って単旋律をつくることを行なってきたが、楽譜を書くことへの抵抗を感じている生徒が多いため、簡単に楽譜化できる楽譜作成ソフト finale を使用する。細かい操作は慣れないと容易ではないが、音選びが容易なことと、選んだ音やリズムをすぐに再生でき、耳で確認できることに利点がある。イメージと音のつながりや音と音とのつながりなどを十分に試しながら創作することができ、旋律をつくったり、楽譜をつくったりする楽しさや喜びが実感できるものとする。

(3) 指導にあたっては、まず第1次において finale の操作に慣れさせるために、既習曲の楽譜を見ながらその旋律を写させたり、自由に音符や休符を配列させたりする。また、4小節からなるリズムと和音進行をいくつか提示して、そのリズムと構成されている和音の音を手がかりに簡単な旋律をつくらせ、旋律と和音との関わりについても感じさせた上で第2次へと展開していく。

第2・3次では、一人ひとりがイメージしたものやつくった旋律を聴いて感じたことなどを伝え合ったり、聴き合ったりする過程の中で思考し、判断する力をより育てたいと考え、次のようにかかわり合う場を設定する。

○教師が提示するいくつかのテーマの中からグループごとに表現したいテーマを1つに絞り込ませ、さらにそのテーマから浮かぶイメージを言葉に転換させる。

○その言葉のもつ雰囲気合う4つの音楽要素（速度・拍子・調・和音進行）をグループの共通設定として決めさせ、共通設定の枠内で個人で旋律づくりをさせていく。

○一人ひとりがつくった旋律をグループ内で聴き合わせ、「イメージが伝わるか」「イメージに合う表現ができているか」「工夫した内容」などについて意見交換をさせる。その後、他の人からの意見を参考に各自で修正、工夫させる。

○完成した作品をクラス内で聴き合わせ、個人がイメージしたものを伝え合い、聴き合わせる。

また、一人ひとりの自由な発想を認め合う雰囲気をつくるために、教師自らが生徒の発想や意見を具体的にほめ、生徒自身の発想がより高まっていくよう言葉かけを行なう。さらに教師が提示するテーマは、「雨」「風」など音への連想が付きやすいものにする。4つの音楽要素を共通設定させるにあたっては、次のように支援する。速度については、メトロノームを使用させ、イメージに合う速度を選ばせる。拍子・調・和音進行については、4分の3拍子8小節によるハ長調とハ短調、4分の4拍子8小節によるハ長調とハ短調の和音進行パターン（計8パターン）をあらかじめデータで用意しておき、聴きながら決定させる。個人による旋律づくりの場面では、各自がイメージや言葉と音に集中できるようにヘッドフォンを使用させる。行き詰まりを感じている生徒には、音の高さや長さなどの具体的なヒントを与えながら支援をしていく。そしてグループ内での聴き合わせの場面では、メンバー全員が同時に聴けるようにスピーカーから出力させる。この時、生徒へは他の人の作品について聴いて感じたままを言葉にし、素直に相手に伝えるよう促していく。これらの場面で伝え合ったり、聴き合ったりするなかで、個人の思考と判断がスパイラル的に高まりながら行き来することを期待したい。

終末には、グループ内で伝え合ったり、聴き合ったりしたことにより、より自分のイメージがより深まり、よりイメージに合う旋律づくりへと高めていくことができたかどうか振り返りをさせる。

### 3 活動展開計画（全5時間 本時4/5）

次	主な学習活動・内容	時	具体的な学習活動
1	finale の操作に慣れよう	1	・楽譜作成ソフト finale の基本操作を学ぶ。既習曲の旋律の一部を用いて操作に慣れさせる。
	和音を手がかりに簡単なメロディをつくってみよう	2	・リズムと和音進行を示し、構成されている音から音を選んでつなげていく。
2	テーマからイメージするものを言葉に転換し、イメージに合うメロディをつくろう	3	・5人1組のグループで、テーマからイメージするものを言葉に転換し、さらに音楽の要素へとつなげる。イメージに合う速度・拍子・調・和音進行パターンを各自のイメージを伝え合いながら決める。
		④	・前時に決めた速度等の条件の中で一人一人が8小節の旋律をつくる。グループ内で聴き合いながら修正・工夫をしていく。
3	完成した作品を発表し、聴き合おう	5	・グループ内でよりイメージに合う（表現できている）作品2つを選ぶ。各グループから選出した14作品を聴き合う。

### 4 評価計画

次	時	音楽への関心・意欲・態度	音楽的な感受や表現の工夫	鑑賞の能力	音楽科における思考力・判断力・表現力
1	1	楽譜をつくることに興味をもち、説明をよく聞きながら操作している。			
	2	意欲的に旋律づくりをしている。	和音の構成音から音を選んでつなげている。		和音の構成音から音を試しながら選んでいる。
2	3	グループ内で積極的に音楽の要素選びをしている。	・テーマからイメージする言葉を見つけている。 ・グループ内でのイメージをお互いに受けとめている。	感じたことを言葉で表している。	イメージを伝え合い、試行錯誤しながら言葉やそれに合った音楽の要素を見つけている。
	④	意欲的に旋律づくりをしている。	イメージやイメージから生まれた言葉、和音などをもとにして試行錯誤しながら音を見つけてつなげている。		自分の意見を伝え、他の人の意見を受け止め、よりイメージに合う旋律づくりを工夫している。
3	5	他の人の作品を真剣に聴き、感じたことをワークシートに記述している。	他の人の作品を聴き、共感している。	感じたことを適切な表現で記述している。	作った作品についてのイメージや意図を言葉で伝えている。

※「表現の技能」については評価規準を設定しない

## 5 本時の学習

(1)ねらい 自分が感じたままの意見を伝えるとともに、他の人の意見を受け止め、よりイメージに合う旋律づくりを工夫することができる。

### (2)展 開

学習場面と子どもの取り組み	教師の支援と願い・評価
1. 本時の学習のめあてを知る。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">イメージに合うメロディをつくろう！</div>	
2. グループごとに前時に決定した速度などの共通設定の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時のワークシートをもとに共通設定の確認をさせるとともに、グループ内で意見交換しながら生まれ、深まっていったイメージや言葉を思い出させる。</li> </ul>
3. グループでの共通設定をもとに各自が旋律をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自が自分のイメージに集中して取り組めるようヘッドフォンをつけさせる。</li> <li>・行き詰りを感じている生徒には、音の高さや長さなどの具体的なヒントを与えながら支援していく。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     評価の観点(思考力・判断力)                      イメージやイメージから生まれた言葉、和音などをもとにして試行錯誤しながら音を見つけつけている。【評価方法 観察、発表、楽譜】                 </div>	
4. ある程度できたところで、グループ内で聴き合わせ、イメージが伝わるか、イメージが表現できているか、工夫した内容などの意見交換をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内全員が同時に聴けるよう、スピーカーから出力させる。</li> <li>・聴くときには音に集中するよう目を閉じさせる。</li> <li>・感じたままを具体的な言葉で伝え合うよう促す。</li> <li>・他の人からの意見をワークシートに書き止めさせ、次の修正作業に活用させる。</li> <li>・聴き合わせることで、他の人のいろいろな発想に気づかせたい。</li> </ul>
5. グループ内での意見交換をもとに各自修正・工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の人の意見や発想を参考に自分のイメージを高められるようヘッドフォンをつけさせ、集中させる。</li> <li>・行き詰まりを感じている生徒には、目を閉じて何度も聴くよう促す。</li> </ul>
6. 今日の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りを発表させる。</li> </ul>